

平成 4 年 9 月 15 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

高水山詣

青梅市の北部を占める「成木地区」は、昭和 30 年に旧吉野村などと共に、青梅市の一部となったところです。千ヶ村峠を超えた坂久橋より東側を明治 22 年までは下成木村、西側を上成木村と呼んでいました。上成木村には、江戸時代後期に書かれた新編武蔵風土記稿によると、寺が 23、神社が 26 もあったようです。現在は人口が少なく、のどかなところですが、これだけ神社があるということは、かつての上成木地区は林業や石灰焼業が盛んで、村も潤っていたことを示しています。また地区内には、今から、200 年以上も前から、獅子舞を奉納する神社が 2 つもあり、4 月には高水山の常福院で、10 月には大蔵野の成木熊野神社の境内で、それぞれの保存会によって奉納されています。上成木側から高水山にある常福院へ参拝に向かいました。

上成木の入平から高水山への登り口は 2 ヶ所あります。高土戸や大指の人々は別当寺である真言宗龍学寺の前から山頂へ向かいますが、極指の人々は、旧大聖院の前から山頂へ向かいます。大聖院は真言宗の寺院で、龍上山と号していましたが、明治 18 年の「入平の大火」で焼失してしまいました。現在は 314 坪の敷地内に、道標を兼ねた出羽三山碑を始めとした、いくつかの石碑が残されている程度です。

大正院跡の前から登る幅 1 m 前後の山道は、中世に開かれた鎌倉街道です。この鎌倉街道を北に進めば、小沢峠・名栗村・妻坂峠を超えて秩父へ達し、一方、南へ進めば松ノ木峠・軍畑・八王子・町田を経て鎌倉に向かいます。大正院前から約 10 分で、2 合目にある大鳥居に着きます。山王型の大鳥居は柱間約 3 m、地面から貫までの高さは約 2.73m です。鳥居の左前には幹囲約 3.67m の大杉がそびえ立ち、また、右側には文政 11 年（1828）の成木第 33 番札所塔や庚申塔が立てられ、さらに鳥居をくぐった右側には、14 基の石仏がずらりと並んでいます。

鳥居から続く山道（参道）を約 50 分間登ると、「手洗水」と呼ばれる湧泉に着きます。「命の霊水」の札が立てられており、湧水の両側には立派な杉の巨木が立っています。右側のものは幹囲 3.63m、標高約 49m で、頂部は枯れています。左側の巨木は幹囲 4.05m、樹高約 51m の大きさです。すぐ下流には五段ノ滝があります。

手洗水から 4～5 分進むと、高水山不動堂の山門に着きますが、そこにも 3 本の杉の巨木があり、最も大きいものは、幹囲 4.69m、樹高約 42m です。山門前の 57 段の石段を登ると、そこには文政 5 年（1822）に建てられた「不動堂」があり、右手は庫裏を兼ねた客間殿になっています。

（文責 角田清美）